

「移住・定住の取組」に関する
政策提言のための中間報告書

令和6年8月7日
大分市議会議員政策研究会

大分市議会議員政策研究会は、平成19年に設置され、政策的条例案の策定や市長に対する政策提言に関する調査・研究を行ってきました。これまでの調査・研究をもとに、平成20年に「大分市議会基本条例」、平成23年に「大分市子ども条例」、平成27年に「大分市民のこころといのちを守る条例」、平成30年に「大分市健康づくり推進条例」、令和4年に「大分市若者応援条例」が制定されました。また、平成24年に「災害対策に関する提言書」を、令和2年に「投票率の向上対策に関する提言書」をまとめ、市長に提出するなど、これまで市民本位の立場から会派を超えて全議員で政策研究に取り組んできました。

今回は、人口減少や少子高齢化の進展などによる地域の担い手不足等の課題に直面していることを勘案する中、「移住・定住の取組」について政策提言を目指すこととし、その背景にある人口減少社会における様々な課題に対する取組も含め、関係者と意見交換を行うなど調査研究に取り組んできました。

このたび中間報告として取りまとめましたので、その経過と結果について報告します。

目 次

1 調査の経過	1
(1) 会議の開催	
(2) 意見交換の実施	
(3) 視察調査	
(4) 全体研修会	
2 提 言(案)	3
(1) 本市の魅力や魅力発信に関する事	
(2) 仕事に関する事	
(3) 住居に関する事	
(4) Uターン施策に関する事	
(5) 安心して移住できる環境づくりに関する事	
(6) 横断的な取組に関する事	
3 む す び	8
資 料	9

1 調査の経過

(1) 会議の開催

令和5年7月14日、全体会議において政策課題を「移住・定住の取組」に関する政策提言とすることに決定しました。

政策課題を具体的に調査研究する推進チームでは、関係課から移住・定住に関する取組等の状況について説明を受けるほか、関係者等との意見交換を行い、意見の分類・整理を行うなど、これまで12回の推進チーム会議を行ってきました。また、7回の役員会議、4回の全体会議を重ねながら、議会全体で議論を行ってきました。

(会議の回数は8月7日現在)

(2) 意見交換の実施

令和5年の市民意見交換会では、「移住・定住の取組」をテーマとして、各地域で市民のみなさまと意見交換を行いました。

また、「移住・定住の取組」について、当事者や支援機関等の声を聞くため、おおいた産業人財センターや移住者、大学生、地域おこし協力隊関係者等との意見交換を行いました。

※詳細は、9ページをご覧ください。

(3) 視察調査

移住・定住促進事業として、お試し住宅の運営や福知山暮らし体感ツアーなどに取り組んでいる京都府福知山市と、移住支援策として、お試し住宅や移住者交流会などに取り組んでいる鳥取県米子市を視察しました。

福知山市では、移住プロモーションをする際にPRしている市の魅力やその発信手法、お試し住宅の利用状況・効果、今後の展望等について調査しました。また、米子市では、移住者の内訳・移住理由の分析、移住者交流会等の取組、今後の事業展開等について調査したほか、駅前のお試し住宅の現地視察も行いました。

(4) 全体研修会

「移住・定住の取組」に関する提言を行うに当たり、全議員が共通の認識を持つことを目的として、令和6年3月25日、慶應義塾大学 経済学部 教授の井手英策^{い で えい さ く}氏を講師として招聘し、全体研修会を実施しました。

全体研修会では、講師自身の移住の体験を踏まえ、専門分野を交えた学者目線からの有意義な講演を受け、終了後には、推進チームメンバーと講師との意見交換も行いました。

2 提言（案）

本研究会では、今回の政策提言でいう「移住・定住」を、「大分市外から大分市に移り住み、大分市に住み続けること」と捉え、以下のとおり提言をまとめました。

（１）本市の魅力や魅力発信に関すること

① 本市の魅力の再発見・再認識について

ア 本市には、歴史や文化、自然環境、生活の利便性、食、地域とのつながり、人の温かさなど数多くの魅力があることから、これまで以上に様々な観点から、潜在的な魅力の発掘や、再発見・再認識に向けて取り組むこと。

イ 本市は、“ほどよく都会でほどよく田舎”というそれぞれの特徴を持ち合わせていることから、その両面の魅力を認識し、移住・定住促進のため、発信に努めること。

② 新たな魅力づくりについて

ア 移住地・定住地として魅力ある場所であり続けていくために、市民とともに魅力づくりに取り組むこと。

イ 進学などを契機に都市部に転出する若年層や、移住を考える若年層などを惹きつけるため、若年層が魅力を感じるイベントや場所などの新たなコンテンツの創出に向けて取り組むこと。

③ 工夫した情報発信について

ア 本市の魅力や、新たに創出したコンテンツなどと合わせて、移住・定住に関する施策等について、様々な媒体を通じて広く周知し、充実した情報を容易に入手できるよう、工夫したPRを行うこと。

イ 本市で既に実施している子育て施策や観光施策などの各種施策については、移住を検討する際の判断材料となり、定住につながることも考えられるため、様々な施策を総合的に広報する情報発信を検討すること。

(2) 仕事に関すること

① 就労に関するサポートについて

移住やその後の定住を考える場合、就労に関することは重要な要素であり、雇用形態や働き方のスタイルなどが多様化している中で、円滑に、かつ、柔軟にマッチング等ができるよう、次に掲げる事項について検討すること。

ア 企業と協力した取組

イ 移住者が継続して働くことができる環境整備や支援

ウ 幅広い年代に対応したサポート

エ 多様な働き方に応じた職のマッチングに関する啓発など

② 本市産業の担い手確保について

ア 農業、林業、漁業等の第一次産業の担い手不足が深刻であり、移住を伴う新規就業希望者を支援することは、将来の担い手の確保にもつながると考えられるため、第一次産業に関する就業支援等について、制度の周知やさらなる充実について検討すること。

イ 移住者が新規就業する際に、安心して就業することができるよう、研修体制や住まいなど、新規就業者を受け入れる環境の整備に関する支援に努めること。

(3) 住居に関すること

① 住宅に関する支援について

移住者が、そのライフスタイルに合った住まいを見つけ、安心して住み続けることができるよう、移住前に本市の生活を体験できるお試し住宅などの取組を検討するとともに、円滑な移住につながるよう、利用しやすい補助制度の充実を図るなど、あらゆる角度から住宅に関する幅広い支援を行うこと。

② 空き家の活用について

住まいを探している移住者が空き家を活用することにより、本市の空き家解消にもつながる可能性があるため、次に掲げる事項について検討すること。

ア 「大分市住み替え情報バンク」などの制度のさらなる周知等

イ セルフリノベーションやD I Yなど、ニーズに応じた活用方法

(4) Uターン施策に関すること

① Uターン促進について

進学や就職などによる転出者を対象とした、Uターン促進に特化した取組について検討すること。

② ふるさとへの愛着につながる取組について

将来のUターンにつなげるため、祭りなどを通じた地域でのつながりづくりや、郷土に関する教育など、ふるさとへの愛着を深める取組を推進すること。

(5) 安心して移住できる環境づくりに関すること

① 移住前の情報収集について

移住を検討するに当たっては、移住先のコミュニティや地域に関すること、生活環境など様々な情報が必要であり、それらの情報を充実させることは移住の後押しや不安の解消につながることから、移住検討時の市内ガイドや下見費用の支援、お試し移住の取組など、移住地の情報収集の支援について検討すること。

② 移住後のつながりについて

移住者が移住した地域に安心して住み続けることができるよう、地域住民や先輩移住者などと交流する機会を創出する取組について検討すること。

(6) 横断的な取組に関すること

① 移住者のニーズ把握などについて

ア 移住者に関して、その年代や居住エリアなど、各種データを収集・分析し、移住者のニーズを把握するとともに、移住促進施策へ反映するよう努めること。

イ 移住者が移住した地域に安心して住み続けることができるよう、移住検討段階から定住に至るまで、切れ目のない丁寧なサポートを行うこと。また、移住者のニーズ把握等とあわせて、移住者へのサポートについて、関係部局間で連携協力し、一体的な施策の推進を検討すること。

② 地域との多様な関わりや特色に応じた対策について

ア 国が二地域居住を通じて地方への人の流れの創出などを推進する中、複数の拠点を持つライフスタイルを求める人も見られることから、将来的な移住につながる可能性がある複数拠点生活に関する取組について検討すること。

イ 本市の中でも、中心部と周辺部では地域性や生活環境が大きく異なることから、移住者のニーズを把握する中で、各地域の実情・特色にあった対策や情報発信に努めること。

3 む す び

本研究会は、人口減少や少子高齢化の進展などの本市の現状を踏まえ、全国的に地方移住への機運が高まっていることから、移住・定住を促進することにより、新しい力と協働しながら地域の活性化を図り、皆が互いに支えあい、持続的に発展する大分市を目指すため、様々な調査研究を進めています。

今回の中間報告は、本市の移住・定住の取組について、本市の魅力や魅力発信に関すること、仕事に関すること、住居に関すること、Uターン施策に関すること、安心して移住できる環境づくりに関すること、横断的な取組に関することについて必要な提言をするものであり、引き続き、広く意見を伺いながら、市民目線に立った調査研究を行い、市長への政策提言を目指します。

【資料】

「移住・定住の取組」に係る意見交換について

	実施日	相手方	場 所	参加者
1	R5.11.6 ～11	各地域の市民の みなさま (市民意見交換会)	植田市民行政センター 坂ノ市市民センター コンパルホール 大在市民センター 大南市民センター 明治明野公民館 野津原市民センター 大分東部公民館 南大分公民館 佐賀関市民センター 大分南部公民館 大分西部公民館 鶴崎市民行政センター	341名 (延べ)
2	R5.11.28	おおいた産業人財センター	大分市議会	5名
3	R5.12.18	大分市に移住し起業した方	クリエイティブ複合 スペース「mazeru」	1名
4	R6. 1.15	日本文理大学学生	日本文理大学	7名
5	R6. 1.23	地域おこし協力隊関係者	野津原市民センター	5名
6	R6. 3.26	Uターン移住者	大南市民センター	2名
7	R6. 4. 2	漁業関係者	佐賀関市民センター	14名